

伊予里 市議会だより

第62号

平成29年
(2017年)

8月



道路にお絵描きしたよ♪

いまりんモーモチちゃんに会ったよ♪ (市民図書館☆まつりにて)

一般会計

6月補正額： 1億8,752万円

予算総額： 255億2,222万円

(対前年同期： +1.7%)

トピックス

- *全議案について、全会一致で可決しました
- *一般質問（録画）のネット配信が始まりました
⇒市議会ホームページからどうぞ！
- *会派の構成が変わりました

平成29年伊万里市議会第2回定例会
会 期 日 程

6月

開議時刻 午前10時

日	種 別	内 容
12(月)	本会議	開 会 会議録署名議員の指名 会期の決定 市長提出議案等 26件・・・一括上程 市長提出議案等の提案理由説明
14(水)	本会議	議案等に対する質疑
15(木)	本会議	議案等に対する質疑 議案の常任委員会付託
19(月)	本会議	一般市政に対する質問
20(火)	本会議	一般市政に対する質問
21(水)	本会議	一般市政に対する質問
22(木)	休 会	常任委員会
23(金)	休 会	常任委員会
27(火)	休 会	正副委員長会
28(水)	本会議	市長提出追加議案 1件、意見書案 1件、 決議案 1件・・・・・・・・一括上程 議案等の提案理由説明 議案等に対する質疑 常任委員会報告 常任委員会報告に対する質疑 議案等の付議順序により討論、採決 伊万里・有田地区医療福祉組合議会議員 の選挙（6名）※ 伊万里・有田地区衛生組合議会議員の選 挙（8名） 伊万里・有田消防組合議会議員の選挙 （5名） 佐賀県西部広域環境組合議会議員の選挙 （2名） 佐賀県後期高齢者医療広域連合議会議員 の選挙（1名） 閉 会

議会ホットコーナー

議長就任 あいさつ

議長 前田 久年

この度、議長に就任し、身の引き締まる思いとともに、その責任の重大さを痛感しているところでもあります。

議会では本年3月に議会基本条例を制定し、議会改革を積極的に進めております。今後も社会情勢の動向を注視しつつ、より円滑な議会運営が可能となるよう、議員皆様のご協力を頂き、さらなる議会の活性化に努めていかなければならないと考えております。

近年、少子高齢化が進み、地域の衰退は深刻なものとなっております。超高齢化社会への対応とともに、将来を担う若い方々の雇用の創出など、様々な課題が山積しています。そのような課題に行政と一体となって取り組み、市民の皆様の負託に応えるべく尽力していく所存でございます。

市民の皆様からのご指導、ご協力をお願い申し上げまして、議長就任のあいさついたします。



馬場副議長

前田議長

松永監査委員

全国市議会議長会 永年勤続表彰
(勤続15年)

松尾議員



松永議員



多久島議員

意見書

教育予算の拡充を求める意見書

国の義務教育費負担割合の引き下げ（1／2 → 1／3）等により、市の教育予算確保が困難になっているため、2018年度予算編成でしっかり確保することを国会と政府へ求めました。

議長就任あいさつ・定例会会期日程など

会派の構成が変わりました

有志・公明の会

市政に同じ志を持って、是々非々の姿勢で市民の立場に立ち、市民目線で判断と行動をし、議会活動に臨みます。



◎松永 前田久 樋渡

新志会

私たち新志会4人は、平成23年の改選期より「結束」の2文字のもと、一致団結して市民福祉の増進を目指し、活動を共にしてきました。これからも市政発展のため力を合わせ頑張る所存です。



◎井手 馬場 東 梶山

日本共産党

くらしと福祉の充実へ。誠実に活動します。



◎船津

いまり新風会

「理念」常に自己研鑽に努め、市政に対する問題意識に基づき、調査・研究及び議論を重ね、最大限の努力をもって市政の発展、市民福祉の向上に努めることを目的として、積極的に議会活動に邁進します。



◎坂本 中山 前田邦



力武 弘川

渭水会

常に市民の目線に立ち、二元代表制を貫く会派。



◎笠原

伊想会

多様な専門性をもつ10人の知恵を集め、二元代表制の一翼を担う議会として、市長・執行部と常に是々非々で向き合います。積極的に学びを重ねて政策提言に努め、「市民に信頼される議会」を目指します。



◎松尾 岩崎 前田敏 香月 副島



山口 多久島 草野 渡邊 盛

総務委員会

★所管 総務部、政策経営部、市民部(戸籍・住民登録等)、出納室、選挙管理委員会、監査委員、他の委員会に属しない事項

当委員会に付託されました条例議案1件、一般議案1件、予算議案1件について審議の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。主な内容は次のとおりです。

【条例議案】

■議案甲第18号 伊万里市個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例制定について

【一般議案】

■議案甲第21号 佐賀県市町総合事務組合を組織する地方公共団体の数の増加及び規約の変更に係る協議について

【補正予算議案】

■議案乙第20号 平成29年度伊万里市一般会計補正予算(第2号)について

○バス交通支援事業 ……………1,942万6千円
過疎地域等自立活性化推進交付金を活用し、黒川町まちづくり運営協議会が実施及び運行主体となる地域バスの車両整備やオンデマンドタクシー用アプリケーション開発等に要する経費を補助するものです。

○再生可能エネルギービジョン策定事業
……………2,213万2千円
エネルギー構造高度化・転換理解促進事業費補助金を活用し、再生可能エネルギービジョンを策定するものです。

○さが未来スイッチ交付金事業 ……509万円
さが未来スイッチ交付金を活用し、地域活性化のためのイベント開催や産業商品等の開発に要する経費を補助するものです。

○消防団運営事業 ……………100万円
一般財団法人自治総合センターのコミュニティ助成事業を活用し、消防団員用防火衣17着を整備するものです。

○消防団施設整備支援事業 ……10万2千円
二里分団第2部(二里町大里区)の消防団格納庫のトイレ改修に要する経費を補助するものです。

【委員会による主な意見】

- ・消防団員用防火衣の更新が早めに完了するよう努められたい。
- ・バス交通支援事業について、地域に合った効率的で継続性のある公共交通体系の整備は費用対効果が大であることから、なお一層の推進を図られたい。

【質疑】

- ・消費生活相談事業における啓発パンフレットの配布について
- ・バス交通支援事業の事業化までの流れについて
- ・再生可能エネルギービジョン策定事業の支援業務委託と今後のスケジュール及び策定委員への市職員の就任について

【現地調査】

- 防災行政無線の中継局等、及び平成29年6月1日に配備された「35メートル屈折式はしご車」の現地調査を行いました。※



総務委員会メンバー

◎井手 勲 ○中山 光義
前田 久年 力武 勝範 梶山 太
草野 譲 多久島 繁 盛 泰子

文教厚生委員会

★所管 市民部（保健・福祉・環境・人権同和）、
教育委員会

当委員会に付託された一般議案2件、補正予算議案2件について審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

主な内容は下記のとおりです。

【一般議案】

■工事請負契約の締結（学校施設環境改善交付金事業南波多義務教育学校建築工事）
今年度に施工する学校建築工事の請負契約を1億8,900万円で株式会社古賀建設と締結するもの。

■財産の無償譲渡（滝野診療所建物）
市の診療所としての供用を廃止した滝野診療所建物を土地所有者に無償譲渡するもの。

【補正予算議案】

■平成29年度一般会計補正予算（第2号）

民生費

- ・地域介護・福祉空間整備等事業
……………300万4千円
介護サービス事業者4事業者に対し、防犯カメラの設置に要する経費の2分の1を補助する。
- ・地域医療介護総合確保事業 ……1,237万3千円
医療法人光仁会に対し、地域密着型サービス施設である定期巡回・臨時対応型訪問介護看護事業所の施設整備及び開設に要する経費を補助する。訪問は既設の訪問看護ステーションの看護師が行うとの説明があった。

衛生費

- ・思春期における保健福祉体験学習事業
……………20万1千円
県の男手子育てチャレンジ補助金の活用により、助産師による講演や中学生を対象に3か月児健診の体験学習を実施する。

教育費

- ・小・中学校管理事業（学校図書購入）
……………2,300万円
用途指定の寄附を財源として市内の全小中学校に図書を購入する。学校毎の選書となるため、学校によって分類が偏らないよう一定の基準をもって選書すること、また今後も図書購入費の予算を確保して計画的に図書の更新を行い、図書の充実を図るよう求めた。

・自治公民館活動促進事業（コミュニティ助成事業費補助金）……………120万円
（一財）自治総合センターのコミュニティ助成事業を活用し、南波多町水留区の屋外放送設備の更新に要する経費を補助する。

■平成29年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）……………236万6千円
国が構築した県後期高齢者医療広域連合の電算処理システムの設定誤りにより制度創設に遡って保険料が更正されたことに伴い、不足が生じる還付金及び還付加算金の増額を行う。現在判明した還付対象者は40人、追加徴収対象者は7人となっている。

【現地視察】

黒川小学校図書館では、児童が図書を手に取りやすいように図書の配置が工夫されていた。家読の取り組みでは、月毎にラッキー本を決めて読んだ人には校長先生からプレゼントがもらえるなど、児童が楽しんで本を読むような工夫をされていた。

南波多小学校では、平成30年度の小中一貫義務教育学校開校に向けた建築工事の内容の説明を受け、新築する校舎の位置、利用する既存施設の確認を行った。また、義務教育学校の運営計画や利点・欠点などの説明を受けた。



南波多小学校現地視察



文教厚生委員会メンバー

◎香月 孝夫 ○前田 邦幸
馬場 繁 副島 明 山口 恭寿
船津 賢次 松尾 雅宏 樋渡 雅純

産業建設委員会

★所管 産業部、農業委員会、建設部、水道部

本委員会に付託されました予算議案について審査した結果、原案の通り可決すべきものと決定しました。

主な内容は以下の通りです。

農林水産業費

■農業用排水路施設等整備事業

○農業用排水路整備

制度改正に伴い、国庫補助金が県経由となったことから財源組替を行う。

○暗渠排水整備

湿田に暗渠排水を施し乾田化を行い、農業経営の安定化を図る。

- ・整備工事費 ……1,960万1千円(5.6ha)
- ・付帯事務費 ……27万5千円
- ・負担割合 県72.5%、市17.5%、地元10%

■森林山村保全管理支援事業

森林の有する多面的機能を発揮するため、地域住民等が行う森林の手入れ等の共同活動に要する経費を補助する。

- ・事業主体 屋敷野フォレストレンジャーほか3団体
- ・事業費 ……172万円
- ・補助金額 ……43万円(事業費の1/4)
- ・負担割合 国3/4、市1/4
(国3/4は佐賀県森林山村対策地域協議会を通じ、各団体へ直接交付)

商工費

■駅ビル機能強化事業

地方創生拠点整備交付金を活用し、本市の交通結節点である駅ビルについて、市民や観光客等が複合的に利活用できる機能を強化し、まちの賑わい創出拠点とするため改修を行う。

○主な改修内容

- ・物販・観光情報発信スペースの拡張
- ・既存テナントスペースを事務所向けの仕様から飲食・物販等に活用できる仕様へ変更
- ・駅前広場にテラス(大型テント)を新設

○事業費の内訳

- ・設計業務等委託料 ……598万5千円
- ・改修等工事費 ……6,867万2千円
- ・付帯事務費 ……104万5千円

(意見)

・森林山村保全管理支援事業については、制度を有効に活用してもらうため関係者への周知に努めるとともに、事務手続きの簡素化を国へ要望されたい。

・駅ビル機能強化事業については、近隣住民等の意見を取り入れた事業実施を図るとともに、議会への速やかな途中経過の報告に努められたい。また、市内の様々な団体と連携し、駅ビルの有効活用を図られること。

・駅ビル内の伊万里・鍋島ギャラリーと大川内山を有機的に結び付け、観光客を大川内山等へ誘導するような案内板の設置に努められたい。

(質疑)

・森林山村保全管理支援事業の対象となる里山林の定義について

・駅ビル機能強化事業について地元への再度の説明会、報告会の予定について

・駅ビルトイレ改修の詳細について

・西九州自動車道伊万里中IC(仮称)の周辺における道の駅と駅ビルの連携及び役割について



伊万里駅現地視察



産業建設委員会メンバー

- | | | | | | |
|----|----|-----|----|----|-------|
| ◎東 | 真生 | ○坂本 | 繁憲 | | |
| | 岩崎 | | 義弥 | 弘川 | 貴紀 |
| | 松永 | | 孝三 | 渡邊 | 英洋 |
| | | | | | 前田 敏彦 |
| | | | | | 笠原 義久 |

新しい農業委員さんをご紹介します

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ・松尾 梨香 さん (大坪町在住) | ・西山 哲 さん (山代町在住) |
| ・中島 徳雄 さん (松浦町在住) | ・山口 友三郎 さん (黒川町在住) |
| ・山口 光壽 さん (大坪町在住) | ・前田 節朗 さん (南波多町在住) |
| ・田代 三義 さん (大川町在住) | ・力武 正光 さん (脇田町在住) |
| ・江向 信夫 さん (大川内町在住) | ・岸本 熊一 さん (波多津町在住) |
| ・吉村 幸夫 さん (立花町在住) | ・福田 義晴 さん (東山代町在住) |
| ・池田 良一 さん (二里町在住) | ・相良 安夫 さん (瀬戸町在住) |

議会運営委員会

会派の人数に応じて選出された委員が「議会の運営に関する事項」、「議会の会議規則や、委員会に関する条例等に関する事項」、「議長の諮問に関する事項」を所管。5月臨時会で就任した前田議長から諮問された「市民との意見交換会を開催するための方策を考えること、前回の議会運営委員会で積み残された案件について結論を出すこと」の2点について鋭意検討すると共に、議会運営全般について議論し、更なる改革を進めるための委員会。



◎樋渡雅純 ○副島 明 岩崎義弥 中山光義
坂本繁憲 山口恭寿 井手 勲 盛 泰子

地方創生調査特別委員会

「人口ビジョン」や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づいて展開される諸施策の推進状況や、課題等を調査検討するための委員会。



◎船津賢次 ○前田敏彦 松尾雅宏 多久島繁
草野 讓 渡邊英洋 笠原義久

議会基本条例推進特別委員会

本年3月に制定した議会基本条例について、具体的な推進方法を調査検討するための委員会。



◎梶山 太 ○弘川貴紀 前田邦幸 力武勝範
東 真生 香月孝夫 松永孝三

一 般 質 問 (質問順)

一般質問事項

議員名	質問事項	議員名	質問事項
中山 光義	1. 地域生活支援事業について (1)事業の内容 (2)障害者等訪問入浴サービス事業の取り組み	香月 孝夫	④窯の煙突塔 ⑤JR側施設 ⑥伊万里駅前公園 (3)市街地活性化のための各種団体等との連携
前田 邦幸	1. 伊万里市保有の土地の管理について (1)事業閉鎖及び無活用地の現状 (2)今後の活用 2. 認知症施策推進総合戦略について (1)国の新オレンジプランについて (2)伊万里市における認知症患者の状況と対応 (3)今後の取り組み	樋渡 雅純	1. 災害時の受援計画について 2. 教育行政について (1)7歳児の交通安全対策 (2)就学援助の拡充 (3)教員の過重労働対策
弘川 貴紀	1. 連携中枢都市圏構想について (1)意義と目的 (2)今後のスケジュール (3)広域連携のメリット (4)各圏域の取組の具体的成果 (5)本市の方向性 2. 学校図書館活用について (1)大口寄附による図書の配備計画 (2)蔵書点検と管理 (3)図書電算化のメリットと維持管理費用 (4)学校長の図書館長指名	東 真生	1. まちなかの活性化について (1)PORTO3316IMARIについて (2)リノベーションへの取り組みについて
松尾 雅宏	1. 松島掘開発地への「道の駅」構想について 2. 東京オリンピック・パラリンピックへ伊万里産食材供給に向けて 3. 鳥獣被害防止総合対策について	梶山 太	1. 障害者への支援について (1)障害者総合支援法について (2)地域生活支援事業について (3)発達障害について (4)学習障害について (5)障害者マークについて
盛 泰子	1. 原発再稼働へ向けた危機管理 (1)原子力災害時の避難所 ①広域避難対策協議会 ②自治公民館を避難所とすることの是非 ③避難所解除となった場所を避難所とすることの是非 ④自主避難者の事前把握 ⑤職員の抜きうち訓練 (2)子どもたちへの対策 ①保育園、幼稚園、学校での引き渡し想定の実効性 ②留守家庭児童クラブへの対応 ③アレルギー対応食の備蓄 (3)安定ヨウ素剤の事前配布へ向けて ①現在の計画 ②昨年の配布訓練での状況 ③県への要請状況 ④業務従事者への事前配布 ⑤希望者への薬局方式による事前配布 2. 信号機などの交通安全対策 (1)駅前交差点信号機の改良 (2)県予算の拡充へ向けて	岩崎 義弥	1. 魅力ある写真の利活用について (1)写真の収集および運用などの状況 (2)写真コンテストの提案 (3)撮影スポットの創出など
香月 孝夫	1. 駅ビル機能強化事業について (1)計画概要 ①計画経緯と目的 ②計画期間 ③計画予算 (2)施設整備及び機能強化 ①MR側施設 ②ペDESTリアンデッキ ③トイレ	副島 明	1. 伊万里版成長戦略について (1)中心商店街の活性化 (2)公共交通機関路線整備計画 (3)企業誘致と起業支援
		前田 敏彦	1. 伊万里ハーフマラソンについて (1)これまでの大会参加状況 (2)反省点、問題について (3)今後の開催について 2. 市内小中学校のプールの維持管理について (1)民間委託の経緯について (2)老朽化の状況は (3)今後の対応
		山口 恭寿	1. 伊万里市の保育行政について (1)民営化の検討状況 (2)牧島保育園、伊万里保育園統合について 2. 大坪小学校線について (1)大坪保育園移転について (2)進捗状況と今後の見通し (3)信号機設置について
		多久島 繁	1. 次代を創る研修事業について (1)市民まちづくり推進会議 (2)今後の研修事業 (3)事務事業評価 (4)グローバルな人材育成 2. ふるさと応援基金の予算充当について (1)基金残高 (2)総務省通達(還元率)について (3)来年度の予算編成の考え方
		船津 賢次	1. 伊万里松浦病院の移転・改築問題について 2. 就学援助制度について (1)入学準備金の引き上げと前倒し支給 (2)要保護世帯の定義 (3)制度の周知

★平成24年9月議会より、持ち時間は75分以内です。

★一般質問の記事は、字数制限があるため、質問者の判断で割愛することがあります。

一般質問

地域生活支援事業
について



中山 光義

質問 地域生活支援事業はどのような内容か。

答弁 市民部長

必ず行わなければならない必須事業と市町の判断により行うことのできる任意事業があり実施をしている。

質問 本市が取り組んでいる任意事業の内容は。

答弁 市民部長

障害者等の身体の清潔の保持や、心身機能の維持等を図るため、訪問入浴車による「訪問入浴サービス」をはじめ5事業を実施している。

質問 訪問入浴サービスの入浴利用制限について。

答弁 市民部長

伊万里市は週2回以内、唐津市3回以内、鳥栖、多久市は概ね週3回以内。

質問 伊万里市も唐津市みたいに週3回以内とすることは出来ないか。

答弁 市民部長

週2回以内が適当なのかどうかだけでなく、部分浴や清拭も含めて今後検討していきたい。

質問 訪問入浴サービスの利用者負担はどのようになっているのか。

答弁 市民部長

一回当り、12、500円の事業費で、利用者負担は原則一割負担、ただし、非課税世帯と生活保護世帯は利用者負担を全額免除している。

質問 唐津市も原則一割負担となっているが特例措置として、18歳以上は本人の課税状況で判断できる。要するに、重度障害者に配慮し、非課税の場合は利用者負担がかからない措置がとられている。伊万里市も唐津市のように特例措置を設けることは出来ないか。

答弁 市長

本人はもとより家族の負担を考えると行政も寄り添う必要がある。早速、7月より自己負担が発生しないように取り組んでいきたい。



伊万里市保有の土地の管理について



前田 邦幸

質問 事業閉鎖及び無活用地の現状は。

答弁 ①政策経営部長、②建設部長

①旧市民病院跡地・立花小学校横・旧黒川小学校跡地・旧婦人会館・都市計画道路大坪・木須線残地がある。②立花分譲地の企業代替え地と公民館予定地がある。

質問 無活用地の今後の利用計画は。

答弁 ①政策経営部長、②建設部長

①旧市民病院跡地は、約1万2千㎡と広く、企業誘致等を視野に売却したい。②立花分譲地の企業用地は西九州自動車道の立ち退き等をふまえ考える、公民館予定地は地元と協議する。

質問 旧市民病院跡地の利用計画は。

答弁 市長

旧市民病院跡地は農林高校の前なので、林業系の専門学校を誘致を県にお願いした経緯もあり、出

認知症施策推進総合戦略について

質問 国のオレンジプランの背景、課題は。

答弁 市民部長

認知症の人が、2025年には、65歳以上高齢者の5人に1人と更に増加することが見込まれ、平成27年1月認知症の高齢者等にやさしい地域づくりに向けて、新オレンジプランが策定された。課題としては、マンパワーの確保（保健師・社会福祉士・介護福祉士）と、地域参画である。

質問 認知症は早期に治療すると、46%は正常に戻る。早期テストMSE検査をしたことは。

答弁 市民部長

家族から相談があれば、同等の長谷川式を使い対応している。

質問 今後の取り組みは。

答弁 市民部長

団塊の世代が75歳となる平成37年に向けて、地域包括ケアシステムづくりの充実に向け、認知症施策については新オレンジプランに基づき、既に取り組んでいる事業、今年度から行う新規事業で出揃うので、今後はこれらの取り組みを深め、広げる事が大事だと考える。

一般質問

連携中枢都市圏
構想について

弘川 貴紀

質問 佐世保市を中心とした佐賀・長崎の14市町が、協議会を5月に設置した。その意義と目的は。

答弁 政策経営部長

過去に類をみない人口減少と、単独自治体のサービスが持続的に提供できなくなる懸念がある中、圏域が連携し、経済成長や生活関連機能サービス向上を図る。

質問 西九州道の延伸や国見道路無料化も10年が経過。広域連携のメリットは。

答弁 政策経営部長

人口26万人の佐世保市と産業、観光、教育や福祉のつながりを更に強化でき、見習う事も多く効果は大きい。また、単独で出来なかつた事業を佐世保市の手助けで取り組むことも可能である。

質問 今後はタテ・ヨコ・ナナメの連携が大切だ。単独ではなくチーム力を発揮すれば相乗効果で思わぬ展開に発展すると思うが。

答弁 市長

まさに時宜を得ており、ひとつの「西九州市」になった位の連携を進めていくべきと考える。日本遺産に登録された肥前築業圏も重複しており、観光連携へのメリットも大きい。積極的に参画する。

学校図書館活用について

質問

校長のリーダーシップの下、組織的に学校図書館の運営がなされるよう、校長を学校図書館の館長に指名する考えはないか。

答弁 教育長

学校図書館ガイドラインや市内の学校の状況を調査研究して前に取り組む。

質問

図書の点検や管理が電算化されていない。家読の広がりや調べる学習コンクールへの取り組みや、大口寄附があった今が電算化を行う絶好のタイミングと考えるが。

答弁 市長

年間予算の3倍以上となる2300万円の寄附をいただき感謝している。絶好のタイミングであり、喫緊の課題として財団の支援等も検討し、来年度の予算化を考える。

松島搦開発地への
「道の駅」構想に
ついて

松尾 雅宏

質問

今、開発が行われている松島搦は大坪・木須線が29年度供用開始となり、西九州道路もICが設置予定となっている。伊万里市への観光客誘導や活性化には「道の駅」整備が必要と思うが市長の考えを聞きたい。

答弁 市長

伊万里市の賑わい創出には松島搦にウエルカムゲートとして「道の駅伊万里」は必要と考える。伊万里市として第六次総合計画に織り込むと共に、本年プロジェクトチームを作り松島搦開発完成年に合わせ整備したい。

東京オリンピックへの
伊万里産長粒米(ホシユ
タカ)食材供給について

質問

東京オリンピックに伊万里市にだけある長粒米(ホシユタカ)

が供給出来れば、計り知れない効果をもたらすと考えるが、そのためにはGAP取得を始め山積する課題がある。この課題を克服する協議会を発足せねばと考えるが市として業務と捉え、職員配置が出来るか。

答弁 産業部長

東京オリンピックの食材として採用して頂く事になれば「伊万里」農産物が世界へのPRになる。他県にない「ホシユタカ」の食材供給に向けて伊万里市も関係機関と連携し、職員配置も行い取り組みます。

鳥獣被害防止総合対策
(箱ワナ)について

質問

本年の箱ワナの台数が昨年の半分以上となったのは何故か。

答弁 産業部長

箱ワナは入札を行います。二度の不落札により、見積りで決定した結果、単価が高くなり少なくなりました。

答弁 市長

今回の指摘は現場とのミスマッチが生じている。今後入札方法、入札時期も検討し予算面においても国に働き掛けを行います。

一般質問

原発再稼働後の
危機管理



盛 泰子

質問 ①原子力災害時の避難先に場所が分かりにくい上に、トイレが少ない自治公民館を充てるべきではない。②他自治体が土砂災害危険区域で避難所解除とした場所を、原子力事故時の伊万里市民の避難所とすべきではない。③平日の日に事故が起きた場合、保育園から高校まで保護者などの迎えが想定されているが、周知に懸念あり。実効性はあるか。④アレルギー対応の備蓄も必要。⑤被ばく直前に飲むと甲状腺がんのリスクが低まる「安定ヨウ素剤」を、希望者に薬局方式で事前配布すべきではないか。

答弁 ①④総務部長、②⑤市長、③市民部長

①当初計画からはかなり減っているが、県内の公共施設全体数からしてやむを得ない。②法的に問題はなくても、市民の安心安全を守る事が出来ず、再考すべきと

考える。③地域防災計画では、保護者などの迎えを規定しているが、周知はまだ不十分。④避難先自治体と協議する。⑤時機を見て松浦市・平戸市・杵岐市など30キロ圏内の首長との協議の場に問題提起したい。

信号機等の交通安全対策

質問 ①伊万里駅前交差点は北からも南からも右折に時間が掛かるため、地元から出された改良要望への返事が保留されている。どのような状況か。②信号機の設置主体である県の予算が少ないため、市内の待機箇所への設置にかなりの時間を要している。横断歩道などの路面表示も含め、改めて県へ予算増額を強く要請すべきだ。

答弁 ①総務部長、②市長

①伊万里警察署によると、相生橋方面からは右折レーンがなく、矢印信号への改良は不可能。また商工会議所の所の信号機との距離が近いなど、総合的に判断する必要がある時間を要している。

②これまでに市長会から何度も要請してきているが、今は県市長会副会長の立場にあり、再度提案し増額を求めたい。

駅ビル機能強化
事業について



香月 孝夫

質問 計画経緯と目的は何か。

答弁 産業部長

伊万里の起点的な位置付けにある伊万里駅も老朽化が進行。財政事情を理由に改修未実施。施設拡充や機能強化を図るため、MR側、JR側両施設をはじめ、ペDESTリアンデッキ、窯の煙突塔、施設内トイレ、お祭り広場の一体的な改修を行い、各種催事などがより実施しやすい環境を整え、賑わいの創出とまちなかの活性化に繋げる。また今後の西九州道路の延伸などを見据えた導線づくりの一環でもある。そこで今回、国の地方創生拠点整備交付金の申請を行い、採択を受けた。

質問 計画予算。

答弁 産業部長

全体総事業費 7507万円
内訳 国 50%、市 50% (起債)

質問 設備機能及び機能強化。

答弁 建設部長

①MR側施設：現行スペースを拡大し、商品販売額の増加を目指す。

②ペDESTリアンデッキ：老朽化したウッドデッキを張替え、また電源設備を拡充し、音楽イベントやビアガーデン的な催事を行いやすい環境整備を行う。

③トイレ：和式を洋式へ変更し、利用しやすい整備を行う。

④窯の煙突等：老朽化した煙突面の塗装を塗り替える。

⑤JR側施設：チャレンジスペース的な要素を取り入れ、物販やカフェ利用などを想定し、キッチン設備の拡充等を行い、利用促進と賑わい創出を図る。

⑥伊万里駅前公園：施設と一体感のあるテラスメント（構造物）を広場内に設置し、各種イベントに役立てたい。



一般質問

災害時の受援計画



樋渡 雅純

質問 防災会議での「熊本地震を踏まえた応急対策、生活支援策の在り方について」の報告に、受援を想定した体制整備について検討を進めるべきとの提言があった。3月31日に「災害時受援体制に関するガイドライン」が公表。市においても応援の受け皿づくりが求められようとしている。①受援計画の概略は②今後の受援計画策定の方針は。

答弁 総務部長

①受入れ窓口や指揮命令等の明確化、役割分担や手順の明確化、受援対象業務の事前特定、受援調達組織等の設置など、円滑に受け入れるための計画。②今年度作成予定の業務継続計画で、人員不足や応援可能な業務が明らかになる。この計画との関係性、県との調整、今後の動向を踏まえ策定の方向で考えていきたい。

就学援助の拡充

質問 先般改正された「要保護児童生徒援助費補助金等の交付要綱」に基づき、実施主体である準要保護対象者に対しても速やかに適切な対応を。①新入学児童生徒学用品の単価引き上げへの対応は。②支給対象者に新たに就学予定者が加えられた。小学校新1年生への入学前での支給は。

答弁 ①教育部長 ②市長

①来年度に向け単価引き上げの検討を行う。②入学前支給を指示する。

教員の過重労働対策

質問 昨年10年ぶりの勤務実態調査があり4月に速報値が公表された。過労死の目安とされる週60時間超えは、小学校で33・5%。中学校で57・7%。勤務時間はともに11時間を超え、本市の深刻な現状が浮き彫りに。

①本市の勤務実態について認識は。

答弁 教育長

①記録表を点検し把握している。今回の調査とあまり変わらない状況にある。②学校適正化対策委員会を設置し効果のある事例を参考にし、電子化による効率化、部活動の適正化、定時退勤日の設定、会議見直しを行っている。特定の教諭の負担集中をなくすよう又、チーム、組織としての対応を心掛けていく。

まちなかの活性化について



東 真生

PORTO3316 IMARRIについて

質問 PORTO3316 IMARRIの今後の活動について。

答弁 産業部長

今日までの運営や活動は国の地方創生加速化交付金を原資に、伊万里まちなか活性化協議会が担う中で、民間の部会長を中心にNPPOまちづくり伊万里や商工会議所、市などの関係機関が連携して「稼ぐ力」の醸成を図るため事業を進めてきたが、今後は、この取り組みをビジネスとして進展させることを基本に、株式会社設立も含め自立に向けた準備が進められている。また、人材育成の取り組みにより、20名程度の女性を中心とするICT活用人材が生まれ、「女性による伊万里市民参加型ポータルサイト運営事業」に取り組みられ、女性目線での情報や魅力の発信の

ために活動され、今後、地域雇用や活力を支える一つのモデルになると期待し、行政として積極的に関わり支援する。

リノベーションへのとりくみについて

質問 リノベーションのまちづくりとはどのようなものか。

答弁 政策経営部長

まちに新たな産業と雇用を生み出し、生まれ変わった遊休不動産を核にその効果を波及させ、まちの価値を高め、物件単体では無くその周辺エリアの地価を向上させる取り組み。リノベーションまちづくりの考え方として民間主導プロジェクトを興し、行政が側面支援し、地域経営課題を複合的に解決する取り組みである。

質問 リノベーションスクール@伊万里が7月に開催されるが、市の役割と今後の支援は。

答弁 政策経営部長

今回は佐賀県主催であり、市は運営協力として、事務局のサポート的な役割。また今後はどんな形が市の取り組みに適しているか、事例を研究しながら、動向を注視し、そこで生じる課題等への対応を行いたい。

障害者への福祉



梶山 太

質問 障害者総合支援法の概要と平成28年の改正点について。

答弁 市民部長

この障害者総合支援法は、平成17年11月に「障害者自立支援法」として制定されている。当初より利用者負担の問題等があり、全面的な見直しが必要で、平成25年からは、現在の名称へと変更になっている。この法律に基づき支援を総合的に行うことで、障害者の福祉の増進を図り、誰もが安心して暮らすことができる地域社会の実現に寄与することを目的としている。主な改正点については、自立生活援助や就労定着支援等の新設がある。

質問 障害者総合支援法の他に、障害者福祉に関し、どのような法律が存在するのか。

答弁 市民部長

1940年に身体障害者福祉法が制定されて以来、知的障害者福祉法や精神障害者福祉法の3つの

障害に対するものや障害者基本法、障害者総合支援法や発達障害者支援法と言ったように、障害者に対する法律は、年々増え続けている。

質問 障害者総合支援法では、難病はどのような病気が該当するのか。

答弁 市民部長

現在、対象となっている疾病は、パーキンソン病、筋ジストロフィー、網膜色素変性症、関節リウマチなどがある。その疾病数については、平成25年4月に130疾病が対象であった。しかし、その後の見直しで、平成29年4月からは32疾病へと対象が拡大している。

質問 様々に変化し、多様化していく障害者への福祉について、市長の考えは。

答弁 市長

私は、かねてより国が法を定めるにあたり、障害者に向き合っているかという事を疑問視していた。議員ご質問の障害者福祉に関しては、国・県・市町村をあげて取り組む問題である。本市で取り組まれている「白い杖で街を歩こう会」に職員へ積極的な参加を促している。また、年1回障害者団体と意見交換会を開催し、貴重な声を拝聴している。私も皆さんとともに共通意識をもち、問題解決に当たっていききたい。

魅力ある写真の活用について



岩崎 義弥

質問

写真を趣味にしている方や腕に覚えのある方は全国的にも多く、伊万里にもいらっしゃる。市の財産となる写真を収集し活用することを目的に「いまり写真コンテスト」を提案したい。

市内外問わず呼びかけることで伊万里に来る動機にもなり、伊万里市民の誇りも醸成できると考える。

実施には以下9点の視点、配慮が必要だと思う。

- ①応募者は市内外のプロアマ素人問わない。
- ②月単位もしくは季節ごとに市長賞など各賞、写真への価値を認め称えるためにも賞金も設定。
- ③審査は年1回、選考委員は公正公平を第一に慎重に選出。
- ④市や市民が利用することを前提の応募とし、観光ポスターやチラシ、ホームページ、伊万里フェアなど多方面に活用。

- ⑤観光協会や市民から利用したい申し出があれば利用できるようにする仕組みも考える。
- ⑥フリーの写真素材サービス「ぱくたそ」への登録は応募時に可否を確認する。
- ⑦賞金など運営の財源はふるさと納税や地方創生の交付金など活用・検討をお願いしたい。
- ⑧カメラマンの心情を考慮し、スマートフォンでの簡易撮影での応募は部門を別枠とするなど配慮が必要か。
- ⑨応募者に伊万里市へのアンケートを実施し、市政に生かす。

以上の提案に対し、市長の見解は。

答弁 市長

写真の力というのは非常にすごいものがある。自分では気づかない伊万里の様々な表情の新発見や再発見があり、気づかされることがある。観光をはじめ様々なものに活用していくことは非常に素晴らしい提案だと思う。伊万里の伝統文化の面においても写真によってクローズアップされることで、それを支え継承する方々の力にもなるのではないかと思う。

提案があった①から⑨を参考に、賞金も準備して伊万里での写真コンテスト開催を前向きに検討したい。

一般質問

一般質問

伊万里版成長戦略について



副島 明

中心商店街の活性化

質問 商店街の空き店舗を利用してリノベーションに取り組んでいるチームと、市が取り組むビジネスオフイス事業との連携ができないか。

答弁 産業部長

ビジネスオフイス事業は平成29年度末までに申請が必要で、現在取り組んでいる事業の他に申請することは難しい。今後このような事業、または支援できる事業制度があれば支援したい。

公共交通バス路線

質問 新幹線武雄駅開業を見据えて、伊万里駅から大川内町、三間坂駅を通じて結ぶ路線を考えてはどうか。

答弁 市長

武雄市にとっては利用客の拡大、伊万里市にとっては観光客の呼び込み、両市にとって効果ある政策を武

雄市と連携できるよう話を進めたい。
質問 佐賀空港利用のリムジンタクシーが有田町までは運行されているが、伊万里までは運行されていない。

答弁 産業部長

県に伊万里への運行を働きかける。

高齢者雇用

質問 人口形態をみると定年退職した世代の人口が多くなっている。年金制度を考えると働くことが必要になると考えるので、この世代の方の雇用を伊万里市としても支援する必要性があると思うが。

答弁 産業部長

企業を誘致するときなどにこの世代の雇用をお願いしていきたい。

企業の人材確保のための奨学金返済基金創設

質問 市と民間企業が協日出資して奨学金を返済する制度を創設することが優秀な人材を確保するためには必要だと考える。このままでは都会への一極集中に対抗できない。市内企業の発展なくしては、伊万里市の発展はないと思うが。

答弁 市長

この問題は、これまで議会でも取り上げられていたので、庁内でも協議中。商工会議所会頭とも話し合いたい。

伊万里ハーフマラソンについて



前田 敏彦

質問 これまでの大会参加人数は。

答弁 教育部表

第1回、第2回大会は定員に満たず、第3回大会で3446人と定員数3000人を上回った。

質問 日程、コースの変更及び制限時間の延長はできないか。

答弁 教育部長

日程の変更は考えていない。現在のコースは、日本陸連公認コースである。コース変更については公認の更新時に合わせることも大坪、木須線の道路整備も勘案し検討したい。制限時間については警察、関係競技団体等と協議し検討する。

質問 今後の大会運営について市長の考えは。

答弁 市長

スポーツ交流人口の拡大、地域経済の活性化、伊万里市のPR効果など期待できる。諸問題や課題は早期に検証、改善するよう努め

る。「新春の走り初めは伊万里で」のコンセプトで「佐賀さくらマラソン」の前哨戦と考えている。

小中学校のプールの維持管理について

質問 牧島小と大川内小のプールの授業の民間委託の経緯と今後の展開は。

答弁 教育部長

この2校のプールの構造が鉄製で老朽化が著しく、維持管理費がかさみ、大規模改修には費用が高額になると予想される。また、民営プールが近くにあったため委託した。2校については今後も継続していきたい。他校への展開は事業の効果を検証し、移動時間、民営プールの受け入れ態勢を考慮し検討する。

質問 老朽化している他校のプールの今後の対応は。

答弁 市長

小中学校のプールの老朽化は喫緊の課題と捉えている。学校施設の一部として改めて総点検を行い、水質管理、漏水防止、危険個所の早急な改修など安全なプールの維持管理に努めていきたい。

一般質問

ストップ！
牧島保育園と伊万里
保育園の統合



山口 恭寿

質問 牧島保育園と伊万里保育園は統合を前提に移設検討委員会が話し合われているが、その状況は。

答弁 市民部長

公立保育園すべてを公立として存続、改築していくのは厳しい。地理的条件から牧島保育園と伊万里保育園を統合し、移設案を出しているが決定ではない。

質問 民間の保育園は小規模の方が国の補助の公定価格が高く設定され運営しやすい。まずは、保育園関係者、牧島地区の方に統合で行くのか、民営化して牧島保育園を残すのか、今後のあり方を確認して進めるべきではないか。

答弁 市民部長

7月に移設検討委員会をおこなうので、その中で取り上げる。

大坪保育園移設問題

質問 大坪保育園の移設に関して4つ候補地があるが、すでに候補地から外れた所があり、残りは今、建設中の大坪小学校線沿線と上伊万里駅付近の2つしか残っていない。大坪小学校線の進捗状況は。

答弁 建設部長

現在北側工区より着工しており、保育園候補地に合わせ事業の再検討を行うことも平成36年の見直しになる。

質問 平成29年3月議会の中では、大坪保育園の移設は5年以内に行いたいと答弁しているが、それと間に合わない。市役所全庁をあげて、この問題を取り上げ欲しい。また、民間の事業者の意見を取り上げてい

れば、牧島保育園と伊万里保育園の移設問題にしても、統合の意見が先に出たりしなかつたはず。保育園の民営化を検討するならば、民間保育園事業者の声も取り入れるべきと考えるが。

答弁 市長

民間の意見を取り入れながら全庁で取り組んでいく。また、大坪保育園の移設候補地の上伊万里駅付近は現在の場所を考えれば、あまりふさわしいとは思えず、大坪小学校沿線が適当。しかし、大坪小学校線は工期的に難しいため、現在保育園の横を取得し、将来的に大坪小学校線につなげる方法など、検討していきたい。

次代を創る研修事業



多久島 繁

質問 ふるさと創生基金で行われてきた「次代を創る研修事業」は海外研修も行ってきたが、ここ数年国内研修のみとされていた。市にとっても人材育成が急務とされてきているなか、多額の基金残高があるこの基金を取り崩してでも、海外研修も含め人材育成をすべきと思う。この観点からも海外研修を再開出来ないか。

答弁 政策経営部長

効果的な人材育成が出来るのなら、海外派遣について排除するものではないと考える。

答弁 市長

海外研修はグローバル人材育成として重要であり、国際的な感覚と視点を持った人材を育てることが大事である。この目的は人材育成であるので、若い人を育てることが喫緊の課題である。早く結果を出すため活用を進める。

ふるさと応援基金の
予算充当について

質問 7月1日より返礼率の見直しにより45%から30%と引き下げられるが、10億円の確保は出来るのか。

答弁 政策経営部長

寄附金減少は懸念しているが、多くの新規返礼品を揃え、魅力を発信する。特設サイトを民間業者に委託し、先進地の事例のアドバイスを受けながら、寄附の増加に繋げたい。

質問 この基金は、納税された方の気持ちから、既存の事業展開に充当するのではなく、その事業の肉付け

など、「したいけど費用の関係で出来なかつた事業」等に充てるものではないのか。来年も今年のような予算編成になるのか。

答弁 政策経営部長

ふるさと納税があるからといって歳出を増やしていくことは考えておらず、ぎりぎり調整している。今後どういう事業に充当するか分かりやすくしていく、今までの課題についても充当していく。今回の新しい7項目の中で対応して、市として恥ずかしくない予算としたい。シーリング（概算要求基準）がかかるような事業にしても、市としてやっていきたいものはやって行く。

一般質問・編集後記

伊万里松浦病院の
移転・改築問題に
ついて



船津 賢次

質問 JCHO（地域医療機能推進機構）は「住民説明会を開くべきだ」「市も住民説明会の開催を求めべきだ」という主旨で質問する。これまでの経過についての説明では、現地での建て替えは当初から排除されていたように思う。移転を考えていたのであれば、その時点で住民説明会を開くべきだったと思う。そして現在JCHOは松浦市への移転に向けて具体化の段階にあると思うが。

答弁 市民部長
その通りだと思う。

質問 こういう状況にあるにもかかわらず、これまでまったく住民説明会が開かれていない。住民や利用者のみなさんは、「この地域での医療供給体制がどうなるのか」「松浦市に移転すれば黒字になるのか」「施設の老朽化や経営努力もあるのではないか」など多くの

疑問をもっておられ、その疑問が払拭されていない。市としても住民の医療供給体制を守るという観点から住民の納得のいく説明会の開催を求めべきではないか。JCHOには説明責任があると思うが、どう考えるか。

答弁 市民部長
要請しているが、実現されていない。

答弁 市長
住民説明会はこれまでも要望してきた。説明会をする、しないの判断はJCHOの判断であるが、議会でも地元議員から住民説明会開催の要望があることを伝えたい。

就学援助制度について

質問 入学準備金の引き上げ・前倒し支給について、昨日樋渡議員の質問に「前向きに検討したい」との答弁があった。これを確認したい。

答弁 教育部長
入学準備金の引き上げと前倒し支給にとりくみたい。



編集後記



私たちの任期も折り返し地点を過ぎ、この度、議会の構成が変わりました。新たな編集メンバーでの議会だよりをお届けします。数えて62号。年に4回の発行です。当初から「議員だけで作成する議会だより」として誇りを持って取り組んでいますが、今年は特別に、市民の皆さんに分かりやすくお伝えするための工夫を重ねていきたいと考えています。折しも選挙権が18歳以上となり、これまでに政治に縁が薄かった皆さんにも関心を持って頂くためのよすがになればと思います。

この6月議会から一般質問のネット配信（録画）も始まっています。一問一答による「熱戦」の感想などもお寄せください。（盛）

公職選挙法の規定により、初盆参りや地区の祭りへ会費以外の金品を持参することは禁止されていますので、失礼します。どうかご理解頂きますようお願い致します。



編集委員

- ◎盛 泰子 ○岩崎 義弥
- 前田 敏彦 前田 邦幸
- 弘川 貴紀 香月 孝夫
- 顧問 樋渡 雅純
- 馬場 繁

発行 伊万里市議会
伊万里市立花町一三五五-1
0955-23-25094
0955-22-12777
E-mail: gikai@city.imari.lg.jp
編集 市議会だより編集委員会
印刷 山口印刷株式会社